

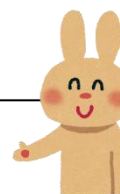
旧高士スポーツ広場の活用に向けた意見書を市へ提出しました

高士区地域協議会では、地域の活力向上を目指し、「旧高士スポーツ広場の活用」をテーマに自主的な話し合いを進めてきました。

この度、これまでの審議の集大成として、意見書を作成し、市へ提出しました。

具体的には、「芝生・植栽・植樹により住民が集い、多目的に利用できる広場」として活用することにより、高士区の特徴を活かしたまちづくりを実現できると考え、活用策を提案しました。

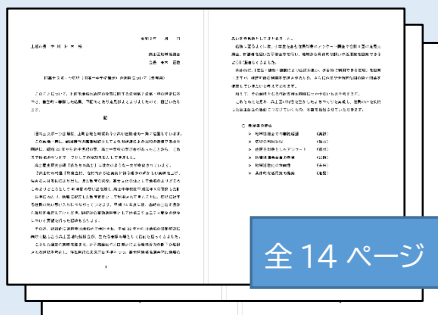
今回のたよりでは、提出した意見書の内容をお知らせします。



<意見書提出の流れ>

～8月

意見書の作成



現在の利用状況や地域協議会での審議経過、アンケート結果、活用策などを意見書にまとめました

意見書とは・・・

地域協議会で自主的に話し合った内容について、市長へ意見として伝えることができる地域協議会の役割の一つです。

意見書を提出すると、市から考えや対応方針などについて、回答があります。

高士区地域協議会では、平成23年以来、12年ぶりの意見書の提出となります。

8月

意見書を市長へ提出



11月頃(予定)

市から回答



提出した意見書全文は
こちらからご覧いただけます↓

「自主的審議事項」の欄をご覧ください



上越市ホームページ>組織で探す>
中部まちづくりセンター>
地域協議会の活動状況(高士区)

次のページから意見書の概要をお知らせします。

～ 市長に提出した意見書(抜粋) ～

令和5年8月24日

上越市長 中川 幹太 様

高土区地域協議会
会長 青木 正紘

旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用について（意見書）

このことについて、上越市地域自治区の設置に関する条例第7条第1項の規定に基づき、自主的に審議した結果、下記のとおり意見がまとまりましたので、提出いたします。

記

旧高土スポーツ広場は、^{うわまち}上町台地と呼ばれる小高い丘陵地の一角に位置しています。

この台地一帯は、戦国時代の高津城跡として文化財保護法上の周知の遺跡であると同時に、昭和22年から約半世紀の間、高土中学校の学び舎があったことから、これまで住民同士のふれあいの場所としての役割を果たしてきました。

高土歴史研究会編「私たちの高土」には次のような一文が寄稿されています。

「高土村の村是『教育立村』を村内外が名実共に誇る幾多の輝かしい実績を上げ、優秀な人材を世に送り出し、また教育の殿堂、高土文化の源として地域のよりどころ心のよりどころとして42年間の思い出を残し、高土中学校は平成元年3月閉校した」

長きにわたり、地域に根差した教育機関として利用されてきたことは、広場に対する住民の熱い思い入れにつながっています。集落対抗の野球大会で白球を追ったグラウンドや、友人と語り合った教室など、この場所に思春期の記憶を刻んでいるのです。平成14年に、当時の上越市長から現場を視察していただき、廃校後の有効活用策として地域コミュニティ施設の建設について要望を行ったことは、この思いによるものであります。

その後、地域内において断続的に活用策が検討され、平成22年からは地域の課題解決に向けて話し合う高土区地域協議会が主たる審議の場として役割を担ってきました。

こうした過去の実績を踏まえ、少子高齢化や人口減少による地域の活力の低下が危惧される現状を考慮し、地域の未来を見据え、高土区地域協議会では地域の思いを意見書としてまとめました。

結論に至るまでには、小学生を含む住民対象のアンケート調査や合計3回の意見交換会、有識者を招いた研修会等を行い、地域から具体的な願いや活用策を提案できるように邁進してきました。

具体的に、「芝生・植栽・植樹により住民が集い、多目的に利用できる広場」を提案しますが、持続可能な利用を実現させるため、住民や活動団体間の協力関係を構築していきたいと考えています。

加えて、その前提となる行政支援も同様に欠かせないものと考えます。

これらの点に鑑み、高土区の特性をいかしたまちづくりを実現し、住民の声を集約した自主自立の活動につなげていくため、本書を提出します。

～ 意見書の概要 ～



現在の旧高士スポーツ広場

導かれる結論として、次の3点が必要であると考察しました。

- ・旧高士スポーツ広場を住民が気軽に集える広場として利用すること
- ・将来世代に負担を感じさせない範囲で、必要な整備を行うこと
- ・地域として、手の届くところから住民に利用を呼びかけていくこと

これらを踏まえて、審議のまとめとして、「芝生・植栽・植樹により住民が集い、多目的に利用できる広場」としての整備を提案しました。

- (1) 広場全体を俯瞰した適正な配置での植栽や植樹
- (2) 多目的にスポーツ活動を行うための芝生の植生
- (3) 植栽の手入れ等に使用する水道の確保
- (4) 落下防止のための安全ネットの設置



2年半にわたる審議期間内に、住民への意見交換会及びアンケート調査等を行い、広場に対する思いの聞き取りや課題の抽出、具体的な活用策の掘り起こしを行ってきました。

意見書に記載した内容

- 1 高士スポーツ広場としての利用経過
- 2 現在の利用状況
- 3 地域協議会での審議(第1期～第3期)
- 4 今期の審議状況(第4期)
- 5 住民を対象としたアンケート結果
- 6 地域協議会の考察
- 7 地域活性化の方向性での位置付け
- 8 具体的な活用策の提案



今後は・・・

まずは市からの回答を確認し、今後の対応を検討していきます。

現委員の残りの任期も残すところあと半年になりました。

これまでの4年間の活動の総括をしながら、引き続き高士区の皆さんにとって住みよい地域になるよう、話し合いを進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

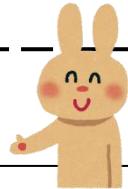


高土区の「地域活性化の方向性」を作成しました

地域協議会では、地域の活力向上に向けた議論を進めるにあたり、地域において特に重視したいこと、大切にしたいことを「地域活性化の方向性」として、以下のとおりまとめました。

高土区の活性化には何が必要なのか、昨年度から委員間で話し合いを重ね、1つのテーマと5つの構成要素を決定しました。

高土区における「地域活性化の方向性」



今ある資源を最大限に活用し、高土の良さと魅力を引き出す。

構成要素

- ・高土ルミネを地域ぐるみで支援・協力し、継続・発展させながら、高土の良さと魅力を引き出す。
- ・若者が主役の活動を通して地域を盛り上げ、高土の良さと魅力を引き出す。
- ・今ある地域行事や組織運営に新たな発想を加え、高土の良さと魅力を引き出す。
- ・地区体育大会等の機会を捉えて交流し、次世代を担える人材を育成しながら、高土の良さと魅力を引き出す。
- ・旧高土スポーツ広場を区民が集える場所として活用しながら、高土の良さと魅力を引き出す。



〈話し合いの様子〉

「高土区の課題って何だろう」をテーマに委員間で話し合いました。

課題も多く上がりましたが、今ある高土の良さや魅力をもっと引き出そうという前向きな意見も多く上がりました。

お問い合わせ先

上越市 中部まちづくりセンター（上越市木田1-1-3 木田第一庁舎 3階）
TEL：526-1690 / FAX：526-8363 / E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp